

令和 4 年 9 月 16 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00369

研究課題名（和文）北米英語俳句の発展と北米現代詩との相互関係および全体像の構築に関する基礎研究

研究課題名（英文）The Development of North American Haiku and its interrelation and overview with North American contemporary poetry

研究代表者

高橋 綾子（Ayako, TAKAHASHI）

兵庫県立大学・環境人間学部・教授

研究者番号：30435416

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：北米英語俳句と北米現代詩との相互関係を検証したが、それぞれ独立した発展を確認した。北米俳句に関しては、Yuki Teikei Haiku Societyに所属しながらその定期刊行物の検証を続けている。北米現代詩に関しては、環境詩と環境詩学の観点で検証を進めた成果を米国ドミニカン大学のMFA in Creative Writing Low Residencyの基調講演で発表した。同大学のハレプスキ准教授との東日本大震災の災害詩の共訳を進めているが、米国での刊行が順調に進まなかったため、環境詩学に関する『アンビエンス—人新世の環境詩学』を思潮社より刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2019年1月、Dominican University of California MFA in Creative Writing Low Residencyにおいて、「環境詩学」について基調講演を行った。アメリカにおける環境詩の区分、自然詩、環境詩、生態詩と比較しながら、日本の現代詩における環境詩の形成を、短歌や俳句など自然観から派生した現代詩、原爆や公害問題に系譜をもつ汚染の詩に分けて説明した。ドミニカン大学のハレプスキ准教授とともに東日本大震災の現代詩人と合亮一作品の英訳を進めた。成果出版として、環境詩学と人新世の観点による論考『アンビエンス 人新世の環境詩学』を思潮社より出版した。

研究成果の概要（英文）：Exploring the Development of North American Haiku and its interrelation with North American contemporary poetry, but it's confirmed that either of them has developed individually. Belonging to Yuki Teikei Haiku Society, Ayako Takahashi continues to proceed American Haiku through its journals. Regarding North American contemporary poetry, she explores it from perspectives of ecopoetry and ecopoetics, which was lectured as a keynote at Dominican University of California MFA in Creative Writing Low Residency. She is working collaboratively with Dr. Halebsky on a collection of translated poems by the Japanese poet, Wago Ryoichi whose work voices complex environmental relationships in the ongoing ecological disaster caused by earthquake, tsunami, and nuclear meltdown in March 2011. They tried to publish the translated poems in the US but they didn't proceed until the date. Instead, Takahashi published a book based on ecopoetic analysis of Japanese and American poetry in March, 2022.

研究分野：英語圏文学

キーワード：環境詩学 災害詩 環境詩 アンビエンス 和合亮一 Brenda Hillman

1. 研究開始当初の背景

俳句又は発句がお雇い外国人やイマジズム詩人によって主に英語圏に伝えられた第一次俳句ブームを経て、北米において大きく注目されるようになったのはビート派による 1950 年代以降であり、優れた俳句学者 R.H. プライスの *Haiku* 全 4 巻 (Hokuseido, 1952)、ハロルド・ヘンダーソンの *An Introduction to Haiku* (Doubleday Anchor Books, 1958)、ケネス・ヤスダの *The Japanese Haiku* (Tuttle, 1989) の業績によって第二次俳句ブームが起こった。1990 年代以降、ドナルド・キーンの *Japanese Literature: An Introduction for Western Readers* (Tuttle 1995) 等の刊行に始まり、近世、近代の俳句、短歌などの文学が優れた日本文学者によって全般的に翻訳されるようになってきた。近年に至りハルオ・シラネの *Traces of Dreams: Landscape, Cultural Memory, and the Poetry of Bashō* (Stanford University Press, 1998)、ロバート・ハスの *The Essential Haiku* (HarperCollins 1994) により、第二次俳句ブームの再評価と俳句のアメリカ化という爛熟期を迎えている。このような過程を踏まえると、1960 年代以降カウンター・カルチャーの運動と密接に結び付いたハイク受容アメリカ化のプロセスは北米特有の文学現象である。

2. 研究の目的

本研究は、1960 年代以降カウンター・カルチャーの運動と密接に結びついたハイク・ムーブメントが芭蕉を理想像としながら培われた北米独自の俳句現象を研究対象とし、比較文学的視点と自然環境と人間との関係を志向する概念であるエコクリティシズム的視点からとらえ直し、北米俳句の発展とアメリカ現代詩との相互関係と全体像について検証することにある。その構築の指針は次の 4 点である。

「カノン化」された芭蕉に影響を受けた北米詩人 (Free Verse 詩人) の調査研究

従来の俳句とともにアメリカ化したハイクに影響を受けたハイクポエトの作品群の調査研究

在米日系アメリカ人の運営による俳句サークルの動向調査研究

俳画、現代俳画の発展、以上である。

本研究成果を広く公開し、幅広い読者層を獲得するため、研究成果物は選詩と詳しい注釈を加えた研究書として英語で刊行し、研究成果を世界に公表し、俳句研究から世界に架橋できるよう貢献したい。

3. 研究方法

比較文学的視点と自然環境と人間との関係を志向する概念であるエコクリティシズム的視点からとらえ直し、北米俳句の発展とアメリカ現代詩との相互関係と全体像について検証する。

4. 研究成果

[2018 年度報告]

2019 年 1 月、Yuki Teikei Haiku Society の代表及び会員との懇談によって、アメリカのハイクの現状を理解することができた。当協会に入会することができ、機関誌 GEPP0 の分析、ワー

クショップ等への参加を通して、研究を蓄積した。北米のハイクをエコクリティシズムによって検証すると同時に、エコクリティシズムを基にする環境詩研究に着手した。

2019年1月、Dominican University of California MFA in Creative Writing Low Residency ドミニカン大学（米国）において、「環境詩学」についての基調講演、アメリカにおける環境詩の区分、自然詩、環境詩、生態詩と比較しながら、日本の現代詩における環境詩の形成を、短歌や俳句など自然観から派生した詩、「私」や「心」を中心として環境意識が顕在化されにくい現代詩、原爆や公害問題に係譜をもつ汚染の詩に分けて説明した。詩人の和合亮一の朗読会も企画したため、和合氏の福島汚染や復興に関わる詩を紹介した。

シンポジウム「アメリカ現代詩と T.S.エリオット」において「ゲラリー・スナイダー T.S.エリオットを通して」の研究発表を行った。2018 International Symposium on Literature and Environment East Asia において、“Poetic Imagination toward upcoming crisis after the 3.11 earthquake”の研究発表を行い、東日本大震災後の照井翠、大口玲子、本田一弘による短歌、和合亮一の現代詩を考察し、日本の災害詩の特徴について初めて国際会議で発表した。『本の虫が語る楽しい英語の世界』（金星堂 2018）（共著）において論文「東日本大震災と環境詩学」が掲載された。東日本大震災を巡る詩歌、俳人の照井翠、歌人の大口玲子と本田一弘、和合亮一の作品を取りあげ、人間と環境との関係を考察した。

[2019 年度報告]

ドミニカン大学のハレブスキ准教授とともに日本の災害詩研究を進め、東日本大震災の現代詩人 和合亮一の英訳を進め成果をあげた。アメリカのジャーナル Two Lines に、“In the Flesh of a Peach”(原文「果実の奥の桃に」)と “Ghosts”(原文「幽霊」)が掲載された。また Poetry Northwest にも次の 7 篇の英訳、“Blown by the Wind”(原文「風に鳴る」) “Remembering Spring: Fukushima Disaster Notes”(原文「震災ノート」) “Suffering”(原文「苦難」) “Screening”(原文「スクリーニング」) “12 Plastic Bottles”(原文「十二本」) “Q Q Q”(原文「Q Q Q」)が掲載された。

[2020 年度報告]

日本の詩歌についての環境詩学に基づく英文論考を完成させ、アメリカの編集者による英文校正を行った。東日本大震災後 10 年を記念した『現代詩手帳』特集詩と災害 3 月号において、日本の災害詩と環境詩学との関係で論じた論考「人新世における物質性との接続—環境詩学から和合亮一を読む」が掲載された。

成果出版となるハレブスキ准教授との共訳共編著『災害の詩学 - 福島和合亮一選集』を米国の出版社から出版をする予定であったが、計画に遅延が発生し、2021 年 3 月の期日まで間に合わなかったためやむを得ず、延期の手続きをとった。

[2021 年度報告]

ドミニカン大学のハレブスキ准教授とともに日本の災害詩研究を進め、東日本大震災の現代詩人 和合亮一作品、『詩の礫』など震災直後の作品に加え、震災後 10 年を経た『未来タル詩の礫十年記』、『Transit』の英訳を進めた。Two Lines に掲載が決定した。

日本の災害詩と環境詩学との関係で論じた論考「人新世における物質性との接続－環境詩学から和合亮一を読む」を起点としながら、環境詩学と人新世の観点で、アメリカ現代詩と日本現代詩を繋ぐ考察をすすめた。

本研究課題の成果出版となる『災害の詩学 - 福島和合亮一選集』を米国の出版社から出版をする予定であったが、計画にさらに遅延が発生し、出版することができなかった。そのため、成果出版として、かねてより検証し研究を蓄積してきた環境詩学と人新世の観点による論考をまとめ『アンビエンス 人新世の環境詩学』を思潮社から出版することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Ayako Takahashi, Judy Halebsky	4. 巻 0
2. 論文標題 In the Flesh of a Peach, Ghosts	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Two Lines Journal	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Ayako Takahashi, Judy Halebsky	4. 巻 0
2. 論文標題 Blown by the Wind, 12 Prastic Bottles, Suffering, Remembering Spring: Fukushima Disaster Notes, Screening, QQQ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Poetry Northwest Journal	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 高橋綾子	4. 巻 0
2. 論文標題 Anne Waldmanの詩とポエトリー・リーディング	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アメリカ文学	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ayako TAKAHASHI	4. 巻 0
2. 論文標題 Reading Gary Snyder--Place, Mythology, Biology. Tokyo: Shichou-sha, 2018.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of the American Literature Society of Japan	6. 最初と最後の頁 97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋綾子	4. 巻 3
2. 論文標題 人新世における物質性との接続 環境詩学から和合亮一を読む	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代詩手帳	6. 最初と最後の頁 86,105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋綾子	4. 巻 30
2. 論文標題 T.S.エリオットを通してみるゲーリー・スナイダー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 T.S.Eliot Review	6. 最初と最後の頁 22-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋綾子	4. 巻 0
2. 論文標題 東日本大震災と環境詩学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 本の虫が語る楽しい英語の世界	6. 最初と最後の頁 297-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 高橋綾子
2. 発表標題 C.D.Wrightの言語詩
3. 学会等名 表現文化研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋綾子
2. 発表標題 ルイーズ・グルックの詩について
3. 学会等名 表現文化研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋綾子
2. 発表標題 ポエトリーリーディングの現在位置 アン・ウォルドマンの詩とパフォーマンス
3. 学会等名 日本アメリカ文学会東京支部2019年12月例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋綾子
2. 発表標題 SDGs と工学教育，
3. 学会等名 第10回横幹連合コンファレンス（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋綾子
2. 発表標題 SDGs達成のための長岡技術科学大学の産学官連携の事例紹介
3. 学会等名 第9回 新潟産学官連携フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋綾子
2. 発表標題 Brenda Hillmanの "Crypto-animist Introvert Activism" 他を通して環境詩、アクティビズムについて
3. 学会等名 日本アメリカ文学会中部支部9月例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋綾子
2. 発表標題 シンポジウム「大洋を越える女性詩人たち」ジェーン・ハッシュフィールドと詩の窓
3. 学会等名 日本英文学会 第91回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ayako TAKAHASHI
2. 発表標題 " Ecopoetics "
3. 学会等名 Dominican University of California MFA in Creative Writing Low Residency（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋綾子
2. 発表標題 アメリカ現代詩とT.S.エリオット」において「ゲアリー・スナイダーT.S.エリオットを通して
3. 学会等名 日本T.S.エリオット協会第31回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayako TAKAHASHI
2. 発表標題 Poetic Imagination toward upcoming crisis after the 3.11 earthquake
3. 学会等名 2018 International Symposium on Literature and Environment East Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋綾子
2. 発表標題 環境詩学を通して読む日本詩歌
3. 学会等名 シルフェ英語英米文学会50周年記念大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 高橋綾子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 347
3. 書名 本の虫が語る楽しい英語の世界	

1. 著者名 高橋綾子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 思潮社	5. 総ページ数 208
3. 書名 アンビエンスー人新世の環境詩学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ハレブスキ (Halebsky)	ドミニカン大学・Literature and Linguistics・professor	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関